

第4回スクラムスクール運営協議会 記録

平成 30 年 1 月 11 日

御前崎市役所 301 会議室

1 会長あいさつ

(御中 石原会長)

- ・方向性を今まで話し合ってきた。大きな変化は目に見えていない。が、この会があったからコミュニケーションがとれたこともある。あと 2 回の運営協議会で子どもたちがすこやか成長していける環境を考えたい。

(浜中 原田会長)

- ・前回の協議会では、熱い意見がたくさんでた。食と成績について
- ・今現在、「浜岡中は変わります」と浜中ではうたっている。地域みなさんもぜひ浜中は変わる方向で見守って欲しい。

2 学校教育課長 報告

※別紙レジュメ参照

3 増田 CS ディレクターより朝食アンケート結果の報告と提案

※別紙資料参照

生活習慣を整えていくことで、子どもたちはみんなで伸びていくのではないかと考える。「早寝・早起き・朝ご飯」を各 P T A、園・小中学校・地域で力を入れて取り組んでいったらどうか。

4 質疑

(五島)

- ・この取り組みを行う目的は、学力をあげることか？なぜ学力をあげる必要がある、という状況までになっているのか、どこまであげることを目標とするか、このテーマを取り上げるための目的背景を共有する必要があるのではないかと。何となくではなく、具体的な目標をもちたい。
例えば、最近新聞を読む子が減っているという。新聞を読むと「世の中に感心を持っている=文章問題を理解できる」と学力向上につながる。学力をあげるためには、何が必要か相談する必要がある。背景と目的をはっきりしておく必要があるのではないかと。

(課長)

- ・本年度の全校学力学習調査では、浜岡中・御前崎中の平均点が全国の点数を上回った。これは浜岡中が伸びた。10年かかった。
- ・生徒の実態として、(勉強がわからない) → (生活が乱れる) → (学校へ行けない) という表れを見せる生徒もいる。現在、御前崎市ではスクラムでつながりをもって取り組んでいるので、そういう子へ継続して対応したい。
「学力」としているが、生活習慣を考えることは、その子の一生に関わる大きな問題である。御前崎市の子どもをよりよく育てるためのものと考えている。これで答えになるか。

(五島)

- ・課題があって、それをどの程度まであげるか、具体が必要。
例えば「決まった時間に寝る」とあるが、それがどう効果的なのか？早寝・早起きは昔から言っている。その時間が問題で、睡眠は小さい頃は能の発達に関わる。何時に寝る、などの具体が必要ではないだろうか。
- ・「学力をあげる」ということは目的に聞こえる。具体的に学力をあげるだけなら、別の方法も考えなくてはならないのではないかと。
- ・やはり、具体的な数字の目標をあげていくべき。
数字にすることで、成果が上がったかどうか判断しやすい。課題があって、それをどのくらいまであげるか、共通の目標が必要である。このままでは、家庭に下ろしたとき、あたりまえではないか、で終わってしまう可能性がある。

(一小 会長 寺井)

- ・昔から言われていることができない家庭が多いからこうなっている。各家庭の事情があるので、時間を決めるのは難しいのではないかと。

(さくらこども園長 植田)

- ・ 基本的な年代ごとの時間を出してもよいが、あとは各家庭で決めること。大切なのは、親がもっと子どもに関わって考えることではないか。そんなに堅苦しくなりすぎずに。
- ・ 市内の園には、保護者が起きていなくて、園へ送迎できない家庭もある。園の職員が家まで迎えに行っている子もいる。そういう子を、ゆくゆくは元気に浜岡中へ通える子にしたい。

(浜中 澤島校長)

- ・ 数字のインパクトは大きい。全国学力学習調査は市としては上回った。今までは浜岡中が足を引っ張っていた。しかし浜中だけで比べると、まだ平均を上回ってはいない。少しずつ、よくなっている。
- ・ 不登校の生徒は、H27年度/34人、H28年度/26人、H29年度/29人と、新しく不登校になったのは1人。過去に不登校傾向があった子が、不登校の表れを見せている。先生方、保護者の努力がある。
- ・ 生徒の実態を見ると、学習についていけないことが、不登校の表れにつながりやすい。「早寝・早起き・朝ご飯」と「学力」の相関関係は明らかである。学力だけでなく、基本的な生活習慣にリンクして提案されているのでは。

(御中 副会長 植田)

- ・ 達成率で目標設定をしていったらどうか。時間を決めるのではなく、取り組んだかどうかで見ていく。そうすることで保護者も変わっていただけるのでは。
- ・ 朝食を必ず食べよう、という方向性をもつことで、子どもが変わって、親も変わっていただけるのではないか。

(御中 石原会長)

- ・ 朝ご飯を食べると勉強ができる、ということを親御さんに明らか伝えていくことが必要だろう。資料はなかなか読まない。そういう事実を知れるような手立てを考えたい。周知があってこそ、実っていくのではないだろうか。

(課長)

- ・ グラフ資料の配付を用意している。それを活用し、園・学校のPTA総会や入学説明会でぜひ話をして欲しい。事実をわかって伝えていくような取り組みをしていきたい。今からのグループ協議では、実態を話しながら、この提案が可能かどうか、何ができるか話をしてほしい。

5 グループ別協議及び全体協議 グループごとの発表

(A 保育園)

- ・ 現状として朝ご飯を食べさせるためには早寝をさせる。親が時間を逆算して関わること。一つの家庭の中でも、小さな子から大人まで年齢差が大きい。小さい子は周囲の家族に巻き込まれる傾向にある。そのため実践がなかなか難しい。
- ・ (朝食) = (学力) は年齢的に保育園ではイメージしにくい。難しい。
- ・ データの結果から保育園では98%が朝食をとっている。小さい頃は親がしてあげる意識が高いが、年齢と共に子ども自身の自立をすることから、親が離れてしまっているのでは?と考えると、子どもより親に働きかけることが必要なのではないか。
- ・ 子どもにとって結果が見えればできるのではないか。牛乳を飲むと骨が強くなる、などのように結果を見えるようにイメージさせる。
- ・ 親支援が必要。保育園は(食事・睡眠・排泄)の記録を毎日つけている。記録をもとに、5才児には5才児にあった声かけをしていくべきではないか。
- ・ 地頭方地区では朝食アンケートをとっている。ほぼ100%摂取している。「食に感心を持つこと」が大きい。子どもができるお手伝い(食器並べ・お箸をだす・お米を洗う等)をすることで一緒に食べることにつながる。
- ・ 家庭事情により一緒に食べられない現実を抱えている。家庭のルール、親としての自分の意思を子どもに伝えることが大切。「家はこうなんだ」と伝えることがコミュニケーションにつながる。親は働いていて忙しいから、ではなくできる範囲で食事を作る努力をし、おいしかった?と声かけをすることが必要。
- ・ 食事は母親任せの傾向がある。母親1人の責任ではなく、家族、特に父親の協力を必要とする呼びかけをする。
- ・ 数字は大事だが、その家庭にあった数字を100%と設定する。

(B こども園)

- ・朝食を100%食べている園は地域の力が大きい。家庭支援をしていかななくてはならない家庭もある。母親には言うだけでは無く、一緒に支え、伝え続けることが大切。
- ・子どもたちは純粋に先生や友達の言葉や取り組みを繰り返せばできていくが、そこに親も一緒になって頑張る思いを持たないと、気持ちは大きくなっていかない。「早寝・早起き・朝ご飯」を合い言葉にして、地域みんなで支え続けることが大事。
- ・「ふれあいカード」を園で行っている。寝た時間や起きた時間を書いている。寝る時刻、起きる時刻を書き、できたかどうかを目に見えるようにする。頑張りや、なぜできなかったかをはっきりさせる。カードなど市内みんなで行なうことで、データもとりにやすい。
- ・資料も委員会から出されるが、配付時期・配布の方法・配布した際の勧め方など、親全員が集まる機会は少ない。総会、参観、一日入園などを活用して頑張っていきたい。

(C 幼稚園)

- ・朝食をしっかりとらせている家庭は、こどもにちゃんと目をかけているのではないか。声かけも丁寧で、それが次第に勉強につながっている。家庭環境が学力や生活習慣に全てにつながり、やはり親が気に掛けることが必要ではないか。
- ・朝食を食べていない家は、家族がの人が一緒に食べていない。「孤食」が原因の一つになっている。家族で食べることも啓蒙が必要である。
- ・子どもが夜型の生活になっている。3歳の子が10時に寝て8時に起きる、という生活を親が目標に掲げる。3歳で11時就寝。コンビニに12時過ぎにパジャマの子どもや小学生が親と一緒に買い物するなど、親自身の意識が低い。園児は10時間の睡眠が必要だが、いつ10時間でも良いのではなく、何時に起きて何時に起きることが何が大事なのか、脳の発達には睡眠と食事は大事、ということをも具体的に伝えることが大事。
- ・最終的には親の意識を変える。具体的に「何時に寝ることが大切」や「なぜ朝食や睡眠が必要なのか」も啓蒙していくことも必要。生活カードを作ること手立てであり、文章だけでなく、見える化したものを用意することも有効ではないか。

(D 中・高校)

- ・様々な保護者が集まる会合の際に、数値やグラフを示し、言い続ける。課題として、本当に聞いてほしい保護者は出席率が低い傾向にある。そこをどうするか。
- ・毎朝学校で「朝食を食べてきたかね？」確認ではなく、簡単に声かけをする。挨拶のようにすり込んでいく。言い続ける。
- ・朝食の摂取率が園や学校によって様々だが、5%ずつあげるなど数値目標を設定する。
- ・PTA、学校だけでなく、公民館の活発な活動や青少年健全育成会などで（今回のアンケートの）数値や取り組みをしていくと子どもの健全育成や学力に良いことを伝えていく。公民館や、このメンバーを中心に。
- ・中学生になると一方的に上から指示したことで動かない。生徒自身の自治力を促す。例えば、委員会など（給食専門委員会：生徒の手でアンケート）（生活専門委員会：就寝時刻調査）生徒自身を巻き込んだ取り組み。
- ・学校だけでなく、様々なお便りがある。目にするお便りの欄外や封筒の隅に「早寝・早起き・朝ご飯推進中」と書き入れるなど、常に目の触れるような工夫。
- ・スマホ・インターネット・SNSは使用量と学力との相関関係がある。使用についての申し合わせ・ルール（池校では3年前にすでに決めてある）を保護者と学校と生徒とで時間を掛けて話し合っ自分たちで決めていきたい。

(E 浜岡中学校区小学校)

- ・各学校の取り組み
 - 第一小：77%手立てが難しい。個々の家庭に入り込みにくい。安否確認する現実。
 - 浜東小：高学年になると正確に調査がされているか？
 - 浜北小：100%でも朝食の内容はどうなのか？気は抜けない。
- ・「早寝・早起き」でかなりの問題がクリアできる。早起きすればおなかがすいて朝食が食べたいと思う気持ちになる。
- ・地域の民生委員に協力を仰ぐ。
- ・家庭が主で、家庭がどうにかする、個々の問題なのでは？その場合、他人がどう入り込むか。家庭に入り込む難しさがある。

- ・「官」が様々な所へ働きかけをする必要がある。市の取り組みを会社へ伝え協力を仰ぐ
- ・100%家庭で朝食を食べる空気がある＝地域のつながりがある。「うちの子に食事をさせずに出すことはできない」という、地域みんなが子どもにたべさせる空気がある。学校が家庭にどういうふうな情報を流せるか。空気を流す一つの方法。
- ・核家族の問題もある。助けてもらえる存在（同居なら祖父母の協力を得られる）が、無い家庭の支援の手は？
- ・家庭内で課題を持って取り組むことが一番いいだろう。1%でもいいので努力して、100%を目指していく。
- ・生活習慣の問題である。生活習慣を整えていくことがよい子になることだと伝える。
- ・官・民一体で、いい環境を作っていくことが大切。
- ・すりこむこと。繰り返し繰り返し言う必要がある。長い目で見ていくことが大事である。今の子ども達が大人になったとき、「朝食を食べることが大事だ」と思えるようにしたい。毎日食べていたことが習慣になり、体が覚えていてそれが、朝食を食べずにいられない大人になれば、子どもにも朝食を提供するようになる。

(F 御前崎中学校区小学校)

- ・アンケート 実態・結果把握ともに、詳しいアンケートをしたい。(取り方・集計) 1日だけのアンケートでなく、複数日や年間通して行いたい。学力とのクロス集計があったが、朝食よりも朝起きる時刻、寝る時刻のアンケートが必要。
- ・朝食＝学力では無い。その間にあるのものが大切である。学力を目的にしているのではない。「早寝・早起き・朝ご飯」の3つを取り組むことで、生活習慣や子どもの生活リズムができ、それによって親子の関わりが増えてこどものよりよい成長につながる。その一つが学力だと思う。
- ・親へ動働きかけるか。やらされるという意識では無く自主的に取り組むには？
- ・「早寝・早起き・朝ご飯」は昔から言われている。朝ご飯を食べている家庭がほとんど。食べていない方が少ない。すると、3つを受けた各家庭の実態によって、取り組みが異なる。スローガンのもとに各家庭でどうするか。日常朝食を食べている家なら「パンだけでなく内容をどうするか」とか、「親子で朝食をつくる」とか。家庭に応じた取り組みが必要となる。各家庭の取り組みを、どう把握してどう実践していくか。

(G 地域代表)

- ・朝ご飯を食べることを100%目標にすることがわかりやすい。
- ・地域として関わる方法としては、挨拶運動を現在行っている。社会教育の管轄でも、サポート隊・交通指導隊が毎朝立哨指導をしている。その毎朝のあいさつの声かけに「今日、朝飯を食ってきたか？」と呼びかけを追加したらどうか。地域で毎日のように声かけをしたい。10日はみんな出て声かけをしたい。
- ・「食べてこない子」たちの解決として、問題の理由を明確に分析して欲しい。「食べたくても食べてこられない」のであるのか、ただ単純に「眠くて食べる気がない」のか。前者の理由が多いのであるなら、ボランティアを募り、こども食堂のような「食べたくても食べられない子どもたち」を対象に「食べさせるための体制」を整える取り組みが、地域の中で必要となるかと考えた。
- ・「眠くて食べたくない」子どもたちには、学校で「今日は食べてきましたか」という、簡単な朝食調査のようなものを行いたい。
- ・「食べない」理由として、核家族で親が作ってくれない場合、三世代の家族なら祖母が協力するなど、子どもが朝食を食べて学校へ行く生活習慣を地域で勧められないか。
- ・評価項目として「学力」と評価されているが、学校の点数だけで無く、人間性や前向きな情熱など、数値化できない人間力が大切と言うことを広め、正しい知識と正しい知性が地域を育てる、と地域では考えたい。

(課長)

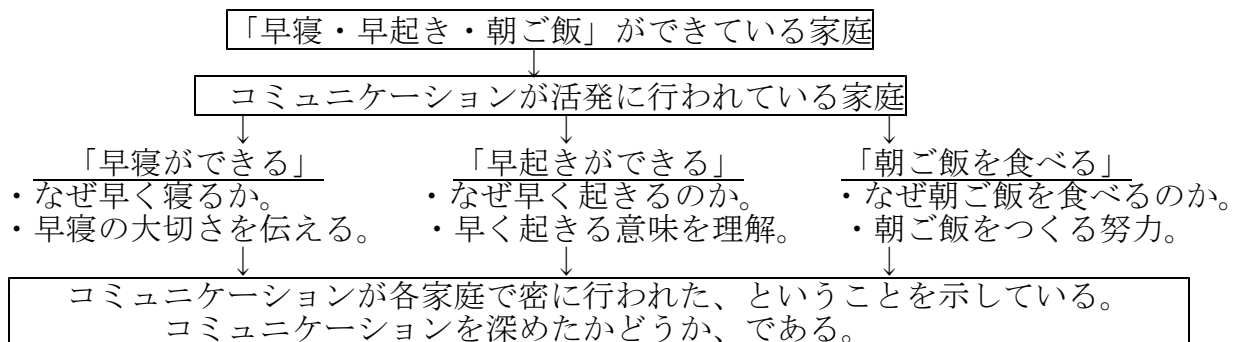
- ・各園・校の実情があるので、取り組み方は各長に任せるが、「早寝・早起き・朝ご飯」に取り組むことは賛成だと感じられた。3月に最後の会がある。それまでに配付資料を完成させるので、様々な場で使ってもらえるまでにしたい。
- ・基本的な生活習慣の大切さを親にわかってもらいたい、ということがねらい。身につけた子ども達が親になったときに、よりよいまちづくりに繋がる、そういう気持ちをもって勧めたい。

- ・今日は様々な意見が出された。全ての意見の活用できないが、基本的な生活習慣を身につけるのは親の責任で大事だと言うことを、親世代に発信していくことを会としてはねらいとして勧めるといふことで、承認していただきたい。

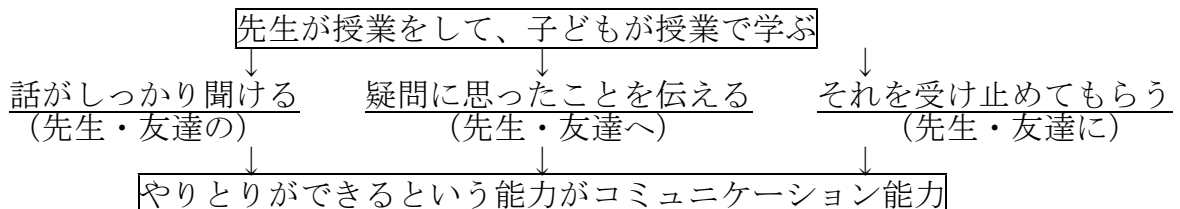
(拍手)

6 講評 (中村先生)

- ・テーマ「早寝・早起き・朝ご飯」がなぜテーマになっていたのかを考える機会だった。
- ・自然に現代社会で生活していると、確実に早く寝られないし、起きられないし、朝ご飯は確実に食べられない。「早寝・早起き・朝ご飯」は不自然なことであり、それを私たちはやろうとしている。スタート地点として「不自然な取り組みをする」ということをわかって始めることは大切である。
- ・アンケート結果から、この不自然なことが多くの家庭できている。



- ・学力の形成は、学校



「早寝・早起き・朝ご飯」という空間が形成されていること、つまりコミュニケーションができる能力が高まっていることが関わるとすれば、学力が高まる、という意味合いになるのでは。

- ・なぜコミュニケーションが必要か？

子どもの自殺が始まる年齢は10歳

10歳を境に、自分に関心を抱きながら周囲に関心を持つようになる。(自我の発達)

↓

周りに自分のことをわかって欲しいけれどわかってもらえなかった。
周りが自分を見てくれなかった。 荒れやいじめが始まった。

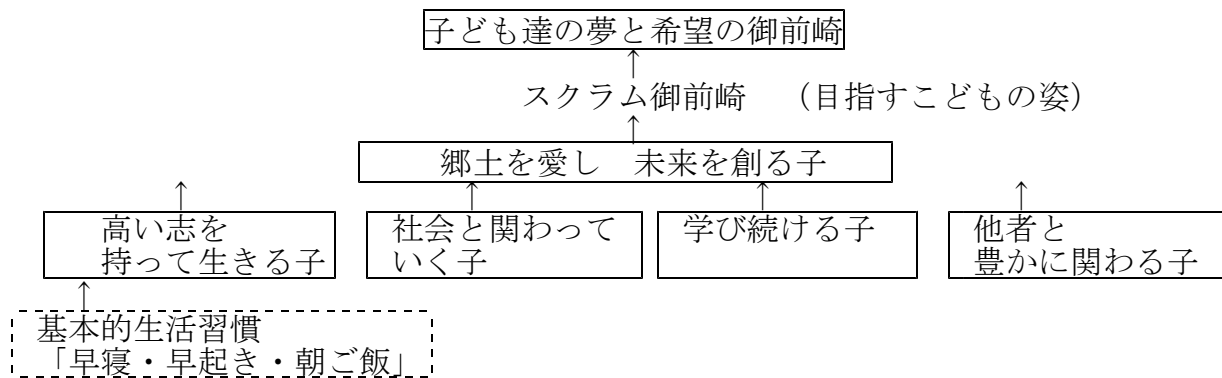
10歳を境に互いを理解しあえる集団は、荒れやいじめ、自殺は起こりにくい。

- ・そもそも子ども達の多くは「自分たちは規範意識が高い」と思っている。
全員が自分の規範意識や生活習慣など、自分が大事だと思う感覚を高く持っている。
それを高く認めるかどうか、であり「相手は自分たちよりも規範意識が低い」と思いういじめが始まる。

- ・学力を高くすることが目標ではないとしても、のびのび生き生きと生きてゆくには、コミュニケーションが大事であり、その出発点として「早寝・早起き・朝ご飯」に象徴されるような、家庭での努力だったり活動だったりが大きく関わっていると見える。
- ・「早寝・早起き・朝ご飯」を通してコミュニケーションすることの大切さについて議論がなされた。年度がかわっても引き継いで行くには大切な話合いであった。

(島田先生)

- ・検証から「なぜ起こるのか」と背景を問うことは大変良い。それが具体的な提案になる。たくさんの要素がからみあつての「朝食」である。ルーツを探る中でみんなで話をしながら、基本的な解決方法に近づいていく。
- ・木を見て森（目指す目的は何か）を見る大切さ



「早寝・早起き・朝ご飯」は全体の葉っぱの位置くらいだろう。全体をよくするためには、葉っぱレベルから見ていくことが大切。葉っぱばかり見てもよくない。

- ・多様性について
不自然な活動でありながら、多くの家庭ができています。できない家庭もある。できない原因は何か。したくてもできないのか。価値観も多様である。よりよい物をつくっていくためには、違う価値観やできていない状況にあるのが、どうということなのか、を考えた上で、どうしていくか話し合っていくことが大切。木を見ながら森を見ていくように、スクラム御前崎を考えたい。

7 連絡

(五島)

- ・町内会の班回覧で（さくらこども園・御前崎こども園・小中学校）の園・学校便りは回ってくる。園便りは園の様子がよく伝わってくることから、他の園便りも班回覧でぜひまわしてほしい。
- ・北小学校は、昨年秋から、空き教室を地域に開放している。浜中も新校舎には地域交流ルームができると聞いている。地域の方々に、子どもや学校を知ってもらおう目的で、他の学校も空き教室を地域に開放したらどうだろうか。

(北小 石川校長)

- ・北小学校は空き教室があるため、地域のみなさんに使ってもらっている。

(課長)

- ・お便りの件は、今後園長会などで話をしていきたい。

今回は3月8日研修センターの予定だが、お便りを確認してほしい。